

パートナーシップ構築シンポジウム

パートナーシップで実現する サプライチェーン全体の脱炭素推進

2026年6月12日
NECネットエスアイ株式会社
調達本部長
足立 卓司

NECネットエスアイの紹介

NECネットエスアイ株式会社

NEC Networks & System Integration Corporation

(略称: **NESIC**)

設立：1953年12月1日設立

資本金：131億22百万円

売上高：3,901億円(連結)

従業員数：7,601名(連結)

国内拠点：51拠点(サービスセンター:16)

2010年代～ ソリューションプロバイダー

2005年～ NECネットエスアイ株式会社

1990年代～ システムインテグレーター

1980年～ 日本電気システム建設株式会社

1960年代～ 海外インフラ構築

1953年(創業)～ 日本電気工事株式会社

通信建設

2020年代～
コミュニケーションサービス
・オーケストレーター



芝浦新本社ビルへの移転
(2023)



目的別オフィス・分散ワークを開始
(2020)



新技術の実証検証、人材育成拠点
テクニカルベース(KTC)開設



Empowered Office Centerを
開設(2007)



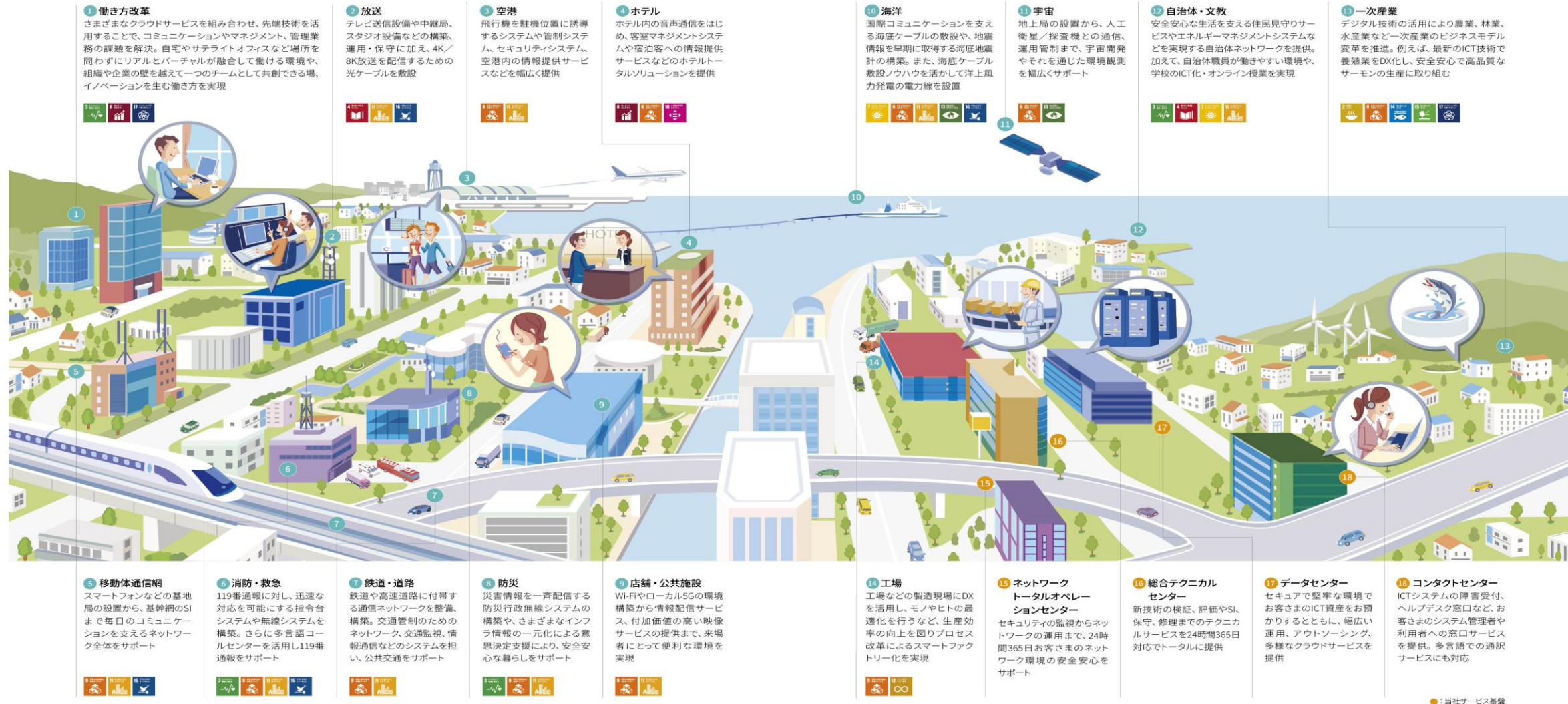
中米5か国マイクロ工事開始
(1970)



初のテレビ放送設備工事
(1956)

明日のコミュニケーションをデザインする

社会の中での当社の事業領域



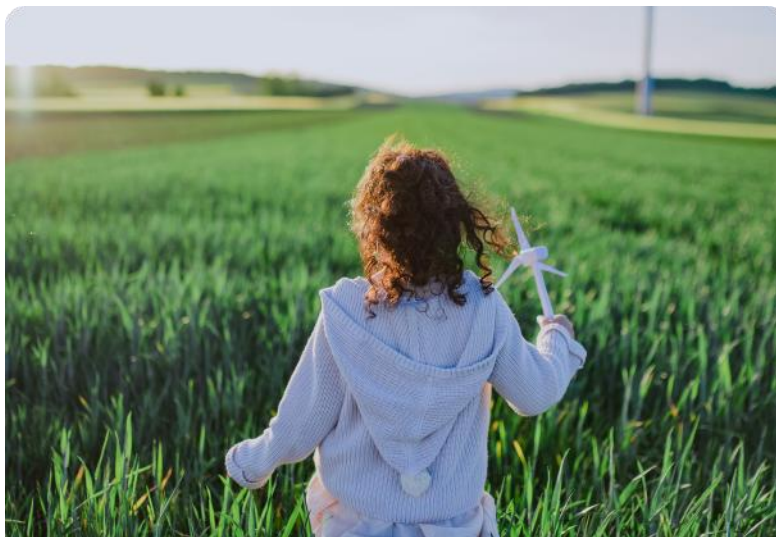
当社の事業は、多くのパートナーとの協働によって成り立っています

パートナーシップ構築への取り組み



フェアな取引を共創

利益もコストもサプライチェーン全体で適正にシェアすることで取引を適正化



サステナブルな事業環境を共創

持続可能な社会の実現に貢献し、サプライチェーン全体での付加価値を向上



新たな市場を共創

お互いの事業との共創アイデアを積極的にマッチングすることで新たな価値を創出

**NECネットワークスアイは、パートナーとともに、
フェアで持続可能な事業環境を共創します**

サプライチェーン全体からGHG排出量“実質ゼロ”へ

NECグループとして、**カーボンニュートラルの実現を2040年に前倒し**をすることを宣言し、GHG排出量削減に向けてエンゲージメントを強化

■ GHG 排出量削減目標



■ パートナーとの取り組み

GHG排出量削減の活動推進ステップ

Step1
削減方針策定



Step2
排出量の可視化



Step3
削減目標設定



Step4
削減対策実行



Step5
削減目標達成

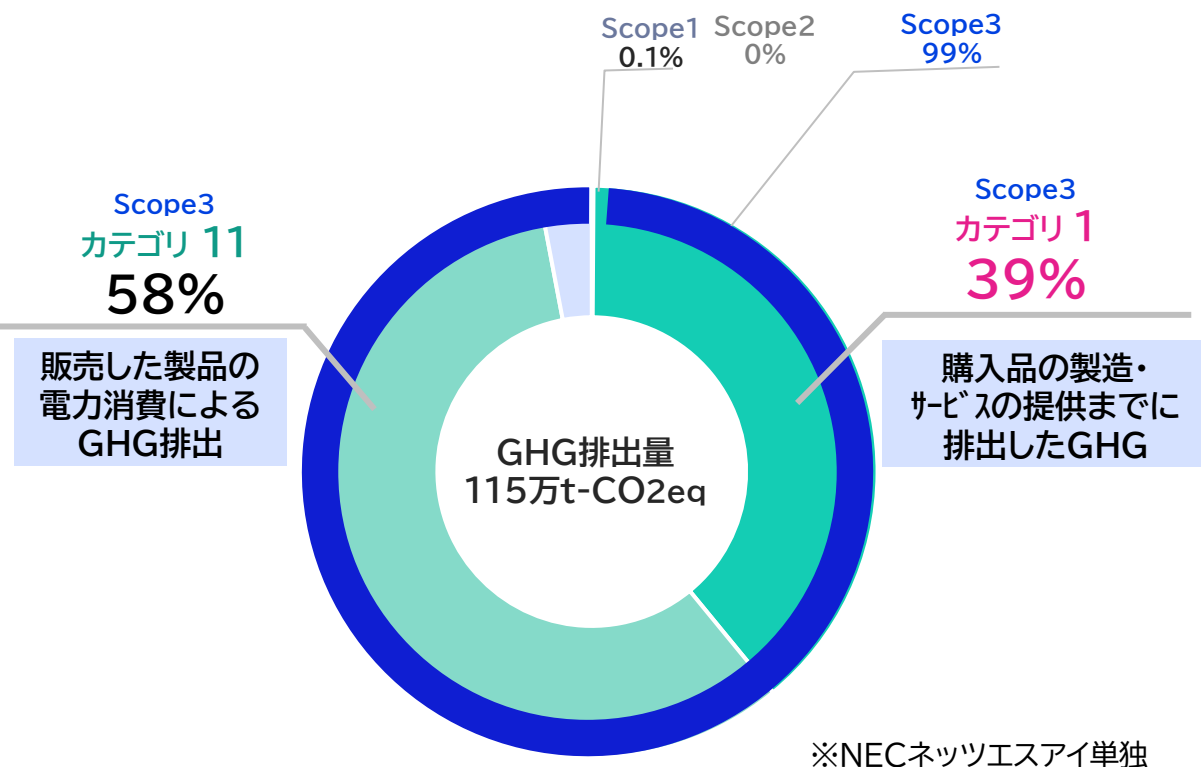


GOAL
サプライチェーン
全体の温室効果ガス
排出量実質0達成

パートナーと始めた脱炭素推進

顧客や社会からの脱炭素要請を受け、自社に加えパートナーを含めた取り組みが必要と判断し、**サプライチェーン全体での排出量把握および削減に向けた取り組み**を開始

2024年度のGHG排出量 構成



- ✓当社のGHG排出量の**約99%がScope 3**
- ✓Scope 3の削減に向けては、自社単独ではなく、**サプライチェーン全体での取り組みが不可欠**

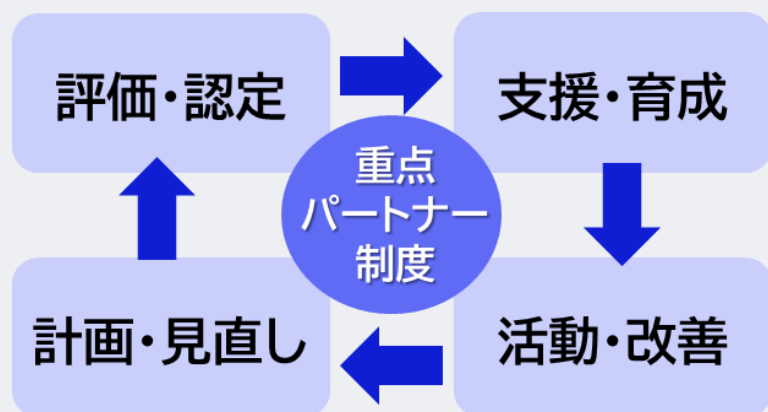
パートナーとの協働による取り組みを開始

当社の品質を担保する重点パートナーとの共創

- お客様の要求品質に応えるため、**2010年より重点パートナー制度を導入**
- 発注金額の約5割を占める重点パートナー**との関係強化を通じて成長戦略を推進

事業戦略の共有等を通じて、
生産能力の向上と市場競争力の強化を図る

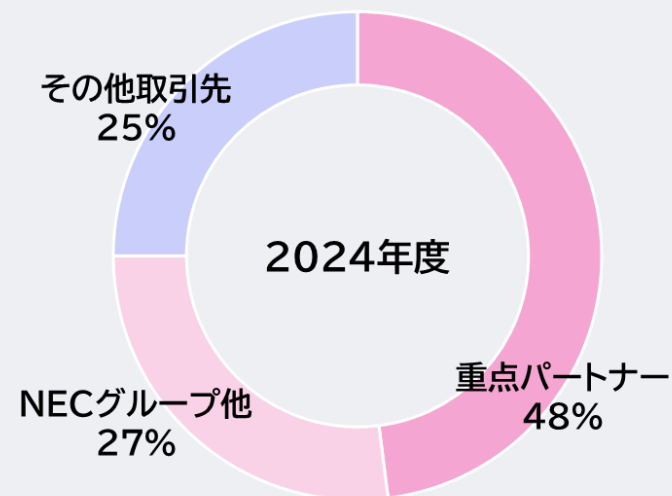
重点パートナー制度のサイクル



活動サイクルを継続的に回し、重点パートナーとの関係強化と取り組みの高度化を推進

重点パートナーは発注金額の約半分を
占める重要なパートナー

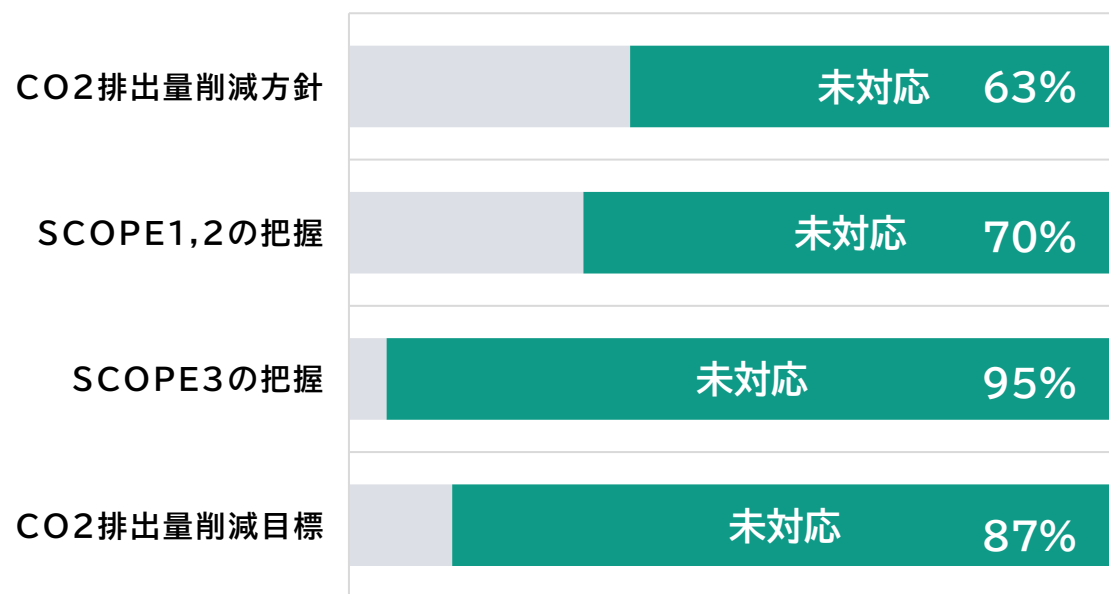
外注費の発注比率



活動を継続する中で見えてきた阻害要因

- 削減方針の策定やScope1～3の把握など、活動ができていないパートナーが多く存在
- アンケート結果では、パートナーにおける推進基盤の整備が大きな課題であることが判明

パートナーの対応状況



脱炭素対応の遅れ

アンケート結果



何から始めればいいのか
分からない

脱炭素を推進する人材
がない



業務が忙しく取り組む
時間を確保しにくい

脱炭素対応を進めるための
知識/ノウハウや推進人材の不足

事例① GHG算定ワークショップ／個別相談会

GHG簡易算定ツールや各種資料を提供したうえで、それだけでは対応が難しいパートナー向けに、理解を深め実際の対応につなげるためのGHG算定ワークショップ／個別相談会を実施。

■ GHG算定ワークショップ

- 「GHG排出量の可視化」に関する進め方や、簡易ツールを用いた具体的な算定方法をレクチャー
 - ✓ Scope1～3の考え方や算定の進め方を共有
 - ✓ 意見交換や質疑応答を通じて課題を可視化
 - ✓ 各社が自社での取り組みを具体化するきっかけに



各社の事業特性や保有データの状況に応じて、対象範囲の考え方や手順などを丁寧に支援

■ オンライン個別相談会

- ワークショップ(対面)の参加が難しい地方拠点の重点パートナーを中心に、オンライン個別相談会を開催
 - ✓ 各社の状況に応じた個別相談を実施
 - ✓ 算定範囲、必要データ、算定手順を丁寧に整理
 - ✓ 実務上の疑問や不安を解消



経営層の方々も積極的に関与

対話とノウハウ共有により、各社の実情に応じた伴走を進め、相互理解を醸成

事例② ベストプラクティス共有／ディスカッション

ベストプラクティスの共有とディスカッションを通じて、各社が取り組みの進め方や工夫を相互に学ぶ場を提供。自社でも実践できるイメージを持ってもらうことで、理解促進と行動喚起を促す。

■ ベストプラクティス共有

- 脱炭素活動を先行して取り組んでいるパートナーの具体的な取り組みをベストプラクティスとして紹介
 - ✓ 取り組みの背景と進め方
 - ✓ 直面した課題や工夫した点 など
 - **自社での取組検討の具体化を後押し**

ベストプラクティス紹介



一問一答インタビュー



■ ディスカッション

- ベストプラクティスの共有を受けて、各社が自社の現状や課題、今後の取り組み方針について意見交換を実施
 - ✓ 自社の取り組み状況を共有
 - ✓ 課題や悩みについて意見交換
 - **次のアクションにつながる示唆を獲得**



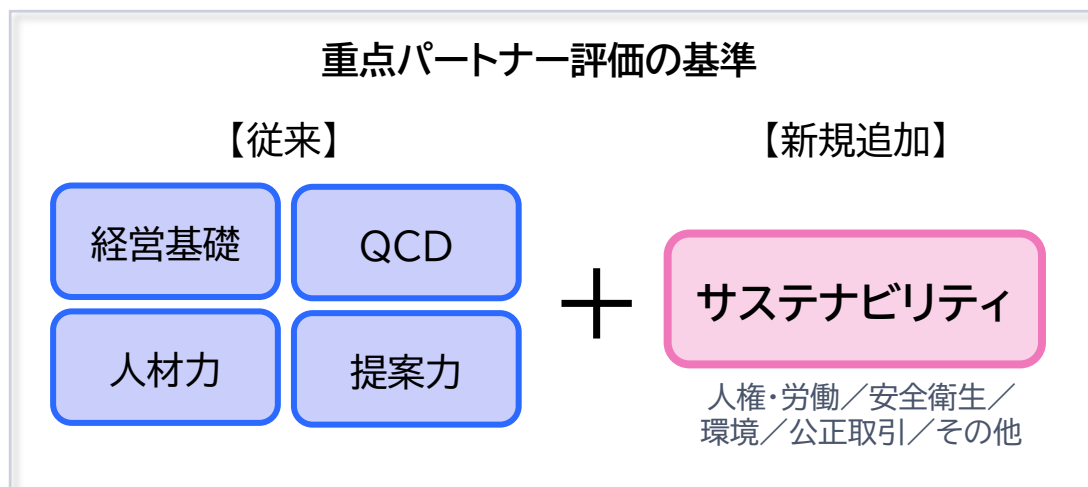
相互に学び合う場の提供による、取り組みの具体化と行動への後押し

事例③ 評価／表彰制度との連動

重点パートナー評価にサステナビリティの観点を反映し、あわせて表彰制度を設けることで、取り組みを後押し。努力が評価される仕組みを整えることで、活動の定着と継続的な改善を促進。

■ 重点パートナー評価制度への反映

- 脱炭素を含むサステナビリティの活動評価を重点パートナー評価制度に追加



■ サステナビリティ表彰制度の確立

- 優れた取り組みを行う重点パートナーに「サステナビリティ・アワード」を授与(年1回)



努力が反映される環境を整えることで、取り組みの定着と継続的な改善を促進

まとめ 支援と制度化の両輪で推進

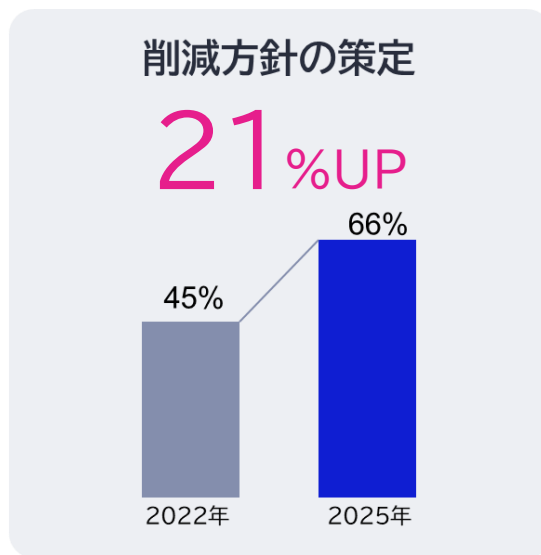
パートナーの脱炭素対応には、理解促進や実務支援に加え、継続的に推進する仕組みづくりが重要。
当社は、伴走支援と重点パートナー制度の運用を両輪として、サプライチェーン全体での取組を推進。



取り組みの成果

脱炭素活動に未着手のパートナーが多い状況からスタートしたものの、知識提供や伴走支援を通じて、自社GHG排出量の把握・算出が可能となるなど、着実に活動が進展。

■ 重点パートナーの進捗



■ 重点パートナーからの声



ワークショップを通じて、算定対象や進め方が明確になり、Scope1・2に加えてScope3の可視化まで具体的に進めることができました。

評価項目や表彰制度が明確になったことで、社内でも進めやすくなり、継続的に取り組む意欲につながりました。



今後の活動方針



支援
強化

自律的な取り組みを支える支援強化

継続的に進められるよう、情報提供や個別支援を充実

連携
深化

対話を軸とした連携の深化

課題や成功事例を共有しながら連携を深化

対象
拡大

サステナブル調達の裾野拡大

取り組みの対象をより広いパートナーへ拡大

領域
拡張

環境・社会課題を包含する調達へ

人権、公正取引、安全衛生など多面的な課題に対応

**NECネットズエスアイは、今後もパートナーとのコミュニケーションを大切にし、
永く共に信頼、発展できる関係づくりに努力します。**

NEC

\Orchestrating a brighter world

NECネットエスアイ